

第42号

2017年3月発行

【発行元】
港区芝地区総合支所協働推進課
発行部数30,000部

芝地区地域情報誌



港区設70周年

『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、さまざまな行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。

芝のNEW スポット

＊送水口博物館＊

気にすると、気になる…



これ、何だか分かりますか？

マンションやオフィスビルなどで必ず目にする“あれ”です。出入口付近の、結構目立つところにあたりもします。

答えは「送水口」。ビルなどで火災が発生した階まで送水する設備である「連結送水管」の一部です。「連結送水管」は、「送水口」「放水口」「送水配管」などで構成されています。ポンプ車で送水口から水を送り、消防隊が放水口にホースを接続して消火活動を行います。消防法などで、高層建築物やアーケードなどへの設置が義務付けられています。



重さ3kgのネジ式送水口口金

この送水口を展示する「送水口博物館」が、新橋二丁目の株式会社村上製作所屋上に、平成27年(2015)11月開館しました。館内には、博物館館長で株式会社村上製作所社長の村上善一さんが収集した送水口が、型別・年代別に分かりやすく展示してあります。そこで、村上さんに送水口収集のきっかけや、魅力について話を聞きました。

同社は、昭和10年(1935)に創立した消火栓全般を扱う老舗メーカーです。かつて自社開発の送水口も製造していました。また、今では一般的に使われている回転式自在水栓(蛇口)も、村上さんの祖父で創業者の善志さんの発案でした。



送水口博物館館長であり、株式会社村上製作所社長の村上善一さん

収集のきっかけ



ポンプの羽車に「M」は村上製作所のロゴマークという、全国の送水口を観察している愛好家からの問い合わせでした。

古い送水口に刻まれているロゴマークが、村上製作所のものではないかという内容でしたが、彼らの訪問を受けたことから交流が始まり、それが古い送水口に興味を持つきっかけとなったということです。また、同時期に西新橋の旧日本電池ビルの解体工事があり、そのビルに設置されていた送水口をもらい受け、それが収集の第1号となりました。

同社では、水の逆流防止のために弁にバネを取り付けた『リフト式逆止弁』を昭和30年代にいち早く採用しました。また、消防ホースとの接続部分はホースがねじれないように、溝を組み合わせ銅線をつないでいるため、同社製の口金にだけ銅線を通す三角のネジ山があります。まちを歩きながら、それを見つけるのもおもしろいです。

見て、触って!磨いて!?

このようにして始まった、送水口愛好家との交流や収集が発展し、同社創業80周年記念事業の一つとして、送水口博物館が開館しました。

博物館の入口では、これまでの来館者数が記録されたコースターがもらえます。館内には、これまで収集した送水口が、パネル説明とともに展示してあります。博物館の建物自体、村上さんが設計から施工まで、ほとんど自分で行ったことです。展示用の送水口を取り付けてある

壁も、もとの建物の壁を忠実に再現しているという凝りようです。今でこそビルの前を通り過ぎて、気づかないほど地味な存在の送水口ですが、かつては金ぴかで、正面玄関の横で思いっきり自己主張していたこと



記念すべき収集第一号となった旧日本電池ビルの送水口

もあったのだと感心してしまいます。展示物を見るだけでなく、実際に触ってみたり、分解してみたり、送水口を磨くイベントも開催しているそうです。また、村上さんが製作した映像作品の放映もあります。

平成23年(2011)の東日本大震災以降、老朽化や耐震強度不足を理由に、建物の建て替えが加速化し、古い送水口もどんどん失われていきました。村上さんは、今後も希少価値のある送水口を収集して、展示内容をますます充実させていきたいと話しています。

今まであまり気にしたことがなかった送水口ですが、一度気にすると、つい探してしまいます。今後、送水口から目が離せそうにありません。

[取材 ■ 森明・菊池弓可、文 ■ 菊池弓可]

Information

送水口博物館
新橋2-11-1
TEL 03-3591-2188(株式会社村上製作所)
開館日時 木曜日・隔週土曜日/14時~19時
※詳しい開館予定はホームページにてご確認ください。
<http://www.zentech.co.jp/museum/>





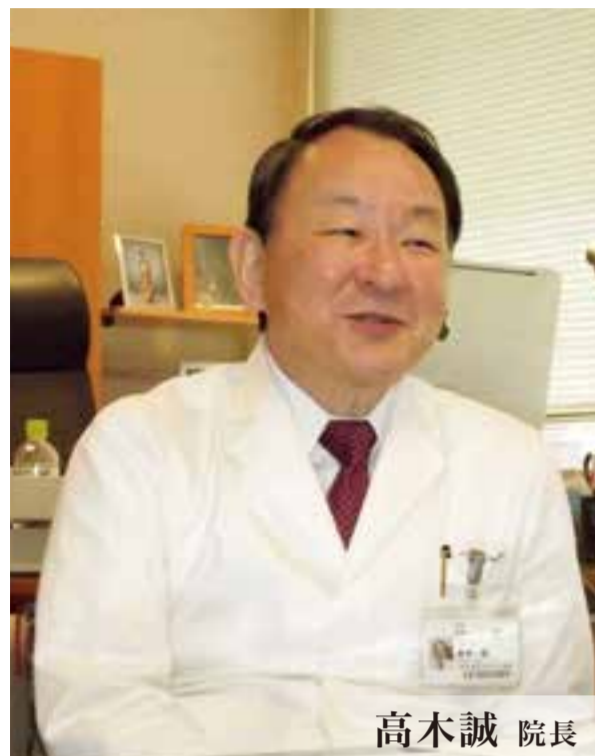
社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 東京都済生会
東京都済生会中央病院

第4回 最終回

東京都済生会中央病院 理念
「済生の精神」に基づいた思いやりのある保健・医療・福祉サービスの提供を通じて社会に貢献します。「済生の精神」とは、分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉の手を差しのべることです。

基本方針

1. 地域の中核病院として、医療機関、福祉施設等との連携を密にします。
2. 個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた医療を提供します。
3. 職員が働きがいとプライドを持って、質の高いチーム医療を実践します。
4. 医療従事者の教育と臨床医学の発展に貢献します。
5. 保健・医療・福祉に恵まれない人々への支援に取り組みます。



高木誠 院長

Q 新主棟がオープンします。

私たちの長年の願いだっ
た新しい病棟の工事が2月
で完了し、機器搬入後の5月
8日(月)に新主棟がオープン
します。

14階建ての免震構造で総
事業費は200億円強。その
内、寄付金額が約6億円です。
皆さま、ご協力ありがとうございます。設計段階で4割近
く予算が跳ね上がりたへん
でした。とにかく、救急外
来スペース拡充と救命救急
病棟の増床、最新ハイブリット手術室1室を含む手術室を12室に増やし、お産のブランド病院
をめざして産科病棟を再開します。産科の岸部長と盛山師長がお待ちしております。



Q 政府の進める「在宅」医療を実現するには何が必要か？

地域連携の促進に対処すべく機能拡大した「患者支援センター」のスペースを1階に広く設けました。皆さまのご相談にお応えするようお待ちしております。

**Q 地元の多くの人たちとの広いつながりと
18年間一直線に歩んだ青春時代を振り返って…**

現在は毎朝自宅の伊皿子から20分歩いて通勤しています。慶應信濃町、三田、日吉の医学部・高校・普通部、天現寺の幼稚舎や三田綱町道場の寒稽古の時代まで遡って思い返してみますと、子どもの頃、この病院には堀内先生に診てもらっていた祖父母のお見舞いによく来ていたこと、また実習時には、先輩医師から「卒業したら、うちにおいで」と言われたことなどを懐かしく覚えています。18年間の学生生活ののち、まっすぐここ済生会に同級生3人が入りました。彼らとは今年1回の温泉旅行を楽しんでいます。現在は同窓後輩の廣谷副院長、塚田副院長らとの素晴らしいチームワークで仕事に励んでいます。

ここの100年の歴史を貫いてきた、分け隔てのない医療の実践として、ホームレス専用病棟と乳児院の存在が挙げられます。このような長い地道な医療福祉活動が基となり、港区初の救命救急センターや災害拠点病院として、都の指定をいただいています。偶然にもお隣が港区保健所なので、災害時には協力して中心的な役割を果たすことになります。

Q 地域の皆様へ

ここでもう100年もやってきましたので、これからも皆さまとともに、地域に貢献していきたいと思ひます。お産の時にもぜひご利用ください。
[取材■柴崎賢一・柴崎郁子、写真■米原剛]

済生会フェア2017 ~地域とともに広げよう、健康の輪~

平成29年4月23日(日)
午前10時~午後3時

新病棟のお披露目を兼ねて地域と一緒に「健康」を考えるイベントです。著名人の講演や職業体験コーナー、模擬店など催し物が盛りだくさんです。無料健康測定も行います。ぜひお越しください!!



**も芝の
丁老舗**

**新橋で120年、四代の歴史を刻む
老舗鳥割烹「古今亭」**

JR新橋駅のSL広場から徒歩2分ほどに「鳥割烹古今亭」があります。

創業は明治27年(1894)。初代常次郎から120年を経た、4代目松島一良さんにお話を伺いました。



4代目松島一良さん

1階はテーブル席。2階には4つの個室があり、襖を外すと60名まで座ることができる宴会座敷になります。3階は会席ができる個室座敷。現代人に優しく、すべて腰かけられるようになっています。平成元年(1989)に松島さんが建て替えました。2階には、店名「古今亭」に感銘した落語家・古今亭今輔から贈られた掛物が飾られています。



今輔師匠から贈られた掛物

見よう見まねからはじめて40年あまり

松島さんがお店に入ったのは20代の時。3代目の父、慎一さんから「店を継ぐのは妹」と言われて育った松島さん。高校2年生の時、妹さんが心臓の病気で亡くなります。下の弟は年齢が離れていたため、松島さんが家業を継ぐことになりました。卒業後、10カ月ほど修行に行きますが、すぐに家に戻ることにし、それからは調理場に入って、見よう見まねで家業を盛り立ててきました。昔からの定番メニューも、時代とともに変革が必要となりました。

お風呂から宴会まで

古今亭のウェブサイトには、母で3代目女将の延子さんが古今亭の歴史「今昔物語」を書いています。

昭和のはじめ、古今亭は300坪ほどの敷地で料亭を営んでいました。広い庭には池があり、その池には赤い橋が架かっていたそうです。客用のお風呂もあり、食事の前にひと風呂浴びて浴衣に着替え、それから宴会が始まったそうです。

戦時中は、軍人の宴会や、出征兵士のための「壮行会」が開かれました。今では考えられない



古今亭焼き鳥

涙の宴会でした。

戦後、3代目が疎開先から戻ると、料亭の場所にはバラックがいくつも建ち並んでいました。その後多くの困難を乗り越えて、現在の場所にお店を構えました。3代目慎一さんが7歳の時、2代目良作さんが亡くなり、昔の記録はあまりないそうです。

鶏は魚よりも高級食材

今でこそ魚料理の方が高級ですが、その昔は鶏料理が高級でした。昔はみな地鶏です。プロイラーなどありません。魚は広い海でいっぱい捕れたので、ごく普通の食材だったのです。

今は幻のメニューとなった「鶏刺し」や「水鍋」。「鶏刺し」は5年前までは提供していましたが、生食用食肉の基準が厳しくなり、みなと食品衛生協会役員でもある松島さんはいち早く「鶏刺し」をメニューから外しました。「水鍋」は、水とお酒と鶏を煮出した小鍋をアツアツに煮たものです。戦後の貧しい時代にはよく売れましたが、今の時代には合わないということで、これもメニューから消えました。

新しいメニューは、ウナギ料理や焼き鳥、鶏煎餅です。母親の兄弟がウナギを扱っており、かつて従弟が古今亭に修行に来た際、代わりに親戚の家が扱っているウナギの調理を教してもらいました。以来、古今亭では辛口のたれを使ったウナギ料理を提供しています。鶏煎餅は、ささみを薄くのばして揚げたものです。ささみの筋を取り、ラップの上で片栗粉をまぶし麺棒で叩きながら紙のように薄く伸ばします。これを冷凍庫で凍らせます。それを高温の油でカラッと揚げ、柿の種のような煎餅を粉にしたものをまぶします。凍らせることで煎餅状になるのかと感心しました。

「大正年鑑の番付では小結だった記憶が」

「新橋は「鶏の町」といわれるほど、同業社が多いです」と松島さん。ある時、お客さまがお持ちになった「大正年鑑」に、古今亭の名前が「小結」の番付に載っていたそうです。



季節の一品「鱈の白子」

バリバリの「鶏煎餅」



個室にある坪庭

変わりゆくまち、変革を遂げる老舗

戦後、混沌とした新橋に、ニュー新橋ビルが建ち、次々とビルが立ち並ぶようになり、チェーン店の居酒屋が増え、雰囲気が変わりました。

しかし、老舗のように長く営んできたお店も健在。こちらは一軒一軒味が違い、献立も違います。古今亭は、持っているレシピから板前さんに相談してメニューを決めます。季節コースはひと月ごとに内容が変わり、鳥コースはふた月ごとに変わります。ただし同じ月にお客さまが再訪した場合は、内容を変えるそうです。

裏方の経営は女将が担当しています。現在は息子さんも帳場に入っているため、今後は5代目の経営となります。楽しみですね。

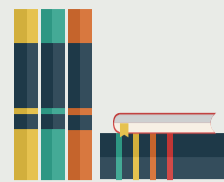


3階の個室座敷

[取材■森明・早川由紀、文・写真■早川由紀]

Information

鳥割烹 古今亭
新橋2-9-14
TEL 03-3501-0111



知ればもっと身近に！

区立みなと図書館

皆さんは、どのように図書館を利用していますか？港区立みなと図書館を含め、区内全館で昨年12月から土曜日も20時までの開館となりました。本の貸出以外にも、さまざまなサービスがあり、その一部を体験してきました。



みなと図書館 外観

まずはレファレンスの体験。「レファレンス」とは、調べもののお手伝いをしてくれる図書館サービスのことで、早速2階参考資料コーナーへ行き、私の探している洋書や英語の論文、区内にある古い建物について、カウンターで図書館司書さんへ相談してみました。司書さんはパソコンの公立図書館検索システムを使い、調べ方を親切にいろいろ教えてくれます。その結果、建物に関する本がみなと図書館の書庫にあることが分かり、なんとその

検索方法を伺いました

本に載っている写真を見ることができたのです。まさに「本のコンシェルジュ」！本の貸出・返却、読書だけが図書館ではないということがよく分かりました。

司書さんは、図書館に揃える本などの選定も任されています。幅広いジャンルをまんべんなく選ぶことを心掛けていて、毎週100冊ほどの新刊本などが図書館に入るそうです。

みなと図書館の2階にある視聴覚資料コーナーのCDも充実しています。日本では知る人ぞ知る、フィンランドの現代音楽作曲家の作品や、「東京みなと音頭」という曲があることに驚き、ぜひ聴いてみたいと思いました。利用登録をしていなくても、無料で図書館のDVDやビデオを観たり、CDを聴いたりできるそうです。

地下1階には視聴覚ホールがあり、ニュースレマパライズのような世界が広がっています。毎月第4土曜日には、20年以上も続く

視聴覚ホール



芝公園に面した1階の新聞・雑誌コーナー

「みなとシネクラブ」という映画上映会を開催。無料で名作映画を観ることができるので、おすすめです。

私は今まで図書館に行っても、黙々と自分で検索して帰ってくるのがほとんどでした。今回、調べものの相談に喜んで応じてくれる司書さんの役割や、お得な図書館サービスを知り、図書館という存在を身近に意識できるようになりました。そして、司書さんとの会話を通して、これからはもっと気軽に利用したいと思いました。

みなと図書館が比較的空いている時間帯は14時から17時の間だそうです。まだ行ったことのない方は、この時間帯に足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

【文・取材】田岡恵美

Information
区立みなと図書館
芝公園3-2-25 TEL 03-3437-6621
ホームページ
<http://www.lib.city.minato.tokyo.jp/j/minato.cgi>

ぎんなん 銀杏 稲荷

三田一丁目にある、銀杏稲荷大明神(白瀧大神)。そこで育っている小さな銀杏の若木にまつわる心温まるエピソードをご紹介します。



現在の若木

かつては白瀧大神という女の神様と、権太夫大神という男の神様が宿るご神木がこの地でお互いを見つめ合うように大空へ伸びていました。権太夫大神の祠は、戦前に東京市が市電を通す際、お祓いをせずに撤去され、ご神木は伐採されてしまいました。

するとその銀杏を運んだトラックが事故を起こしたり、近所の人たちが病気になったりと、災いが続いて起きため、地域の人たち

が協力して銀杏講をつくり、京都の伏見稲荷をお願いをして、再び権太夫大神を三田の地に迎えました。

白瀧大神は街角に、権太夫大神は元神明宮境内にあり、三田の地域を見守っていました。

地域の再開発に伴い、銀杏稲荷を町の真ん中に遷座し、新しい祠にすることになりました。その際、樹木医にご神木の太幹を調べていただいたところ、幹の中央部が空洞になっていることが判明。倒木の恐れがあるとの診断結果でした。安全上やむなくと判断し、お祓いして伐木することになりました。

実は伐木をする少し前に、もともとあった祠の台座の下に銀杏の若木が育っていました。祠の下でひっそりと自然の力で新しい命を育てていたのです。発見した時は、見過ごしてしまいそう小さな新芽でしたが、植木屋さんをお願いをして、大切に育てたようです。そして、この新しく授かった銀杏の若木が、現在の銀杏大明神(白瀧大神)に移植され、今では人の身長を超える程の大きさにまで成長しました。

三田の地域は現在、再開発が進み、街並みが大きく変化しつつあります。これに伴い、まちの顔や住民も大きく変わりつつありますが、昔から地域を見守ってきた銀杏の木は変わらずにそこに佇み、今までもこれからも、私たちの心の拠り所となってくれるはず

です。今回、元神明宮の宮司・青木大和さんにお話を伺いました。このような地域のための活動が、未来の芝地区をより豊かなものへと導いてくれると思います。



移植時の若木

樹木は昔から人々の心を引き寄せてきました。この小さな銀杏の若木も、かつてのご神木のように立派に成長して、まちのシンボルとして地域を見守ってくれることでしょう。

【文・取材】竹田和行

Information
元神明宮(天祖神社)
三田1-4-74
TEL 03-3451-2493
銀杏稲荷大明神
三田1-7

芝地区 いきいきプラザ 体づくり編

芝地区いきいきプラザ3館では、元気な体づくりのために、各種さまざまなプログラムが用意されています。今回はそのいくつかをご紹介します。

男性のための健康づくり(講義編)
生活習慣病や男性特有のお悩みをテーマに講義

ヨガ
眠っている身体を気持ちよく呼び起こしましょう

ボディシェイブ
有酸素運動と筋トレして、効率よく脂肪を燃焼!

腰痛予防
家でも続けられる運動で、腰痛になりにくい身体づくりを!

神明いきいきプラザ
ストレッチボール
動きにくい骨盤の動きをスムーズに。体幹を鍛えましょう

リズムでホケシキ
パンチやキックをリズムに合わせて、ストレス解消!

認知症予防 オレンジカフェ
「物忘れと認知症の違いは?」「自分より家族のことが心配で…」など、病院でも聞けなかった素朴な疑問を気軽に相談できます

虎ノ門いきいきプラザ
高腰スッカリエクササイズ
コリや軽い痛みのある方、体操をしながら、スッカリ!

とらトレ体操
毎月テーマを変えつつ、無理なく体を鍛えましょう

健康体操講座
テーマごとにベテランスタッフが分かりやすく、健康づくりについて話します

トレーニングマシン講習会
マシンやアイテムの基礎的な使い方を一から学ぼう!

三田いきいきプラザ
健トレ
ストレッチや椅子に座っての体操など、無理のない運動で介護予防を

季節ヨガ
伸び伸び体をほくして、ポーズをとって腹式呼吸を!

ゴルフピタイス
ゴルフに興味のある方、体操をしながらフォーム改善

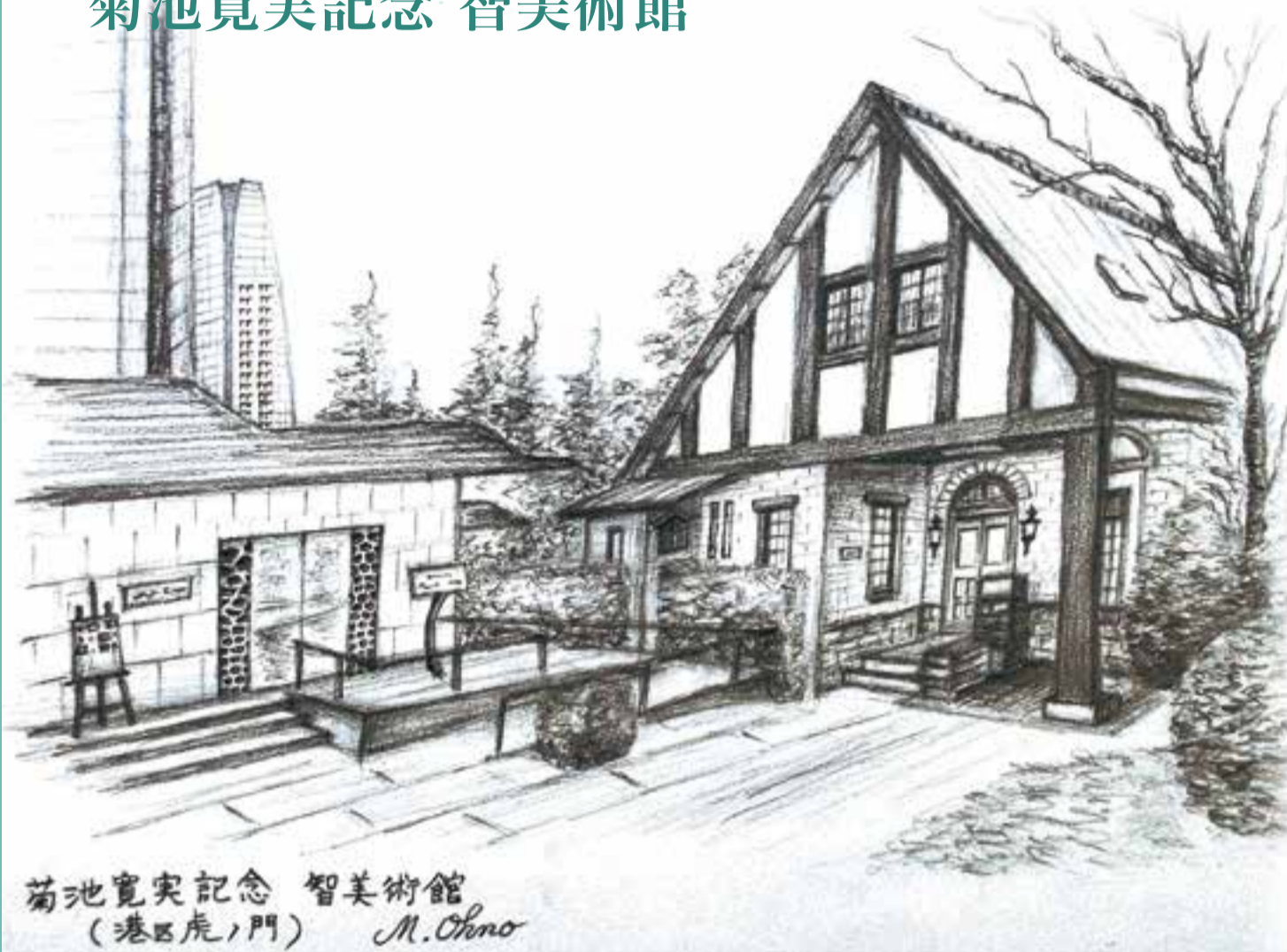
以上、ご紹介した以外にも、30余りのプログラムが用意されています。それぞれ個人の状況に合わせて参加できます。詳しくは3館にお問い合わせのうえ、元気な体づくりをしましょう。
【取材・文・写真】米原剛

Information
三田いきいきプラザ:芝4-1-17 TEL 03-3452-9421
神明いきいきプラザ(プラザ神明):浜松町1-6-7 TEL 03-3436-2500
虎ノ門いきいきプラザ(とらトピア):虎ノ門121-10 TEL 03-3539-2941



芝にある風景

きくち かんじつ とも
菊池寛実記念 智美術館



菊池寛実記念 智美術館
(港区虎ノ門) M. Ohno

「菊池寛実記念 智美術館」は、虎ノ門から歩いてまもなくのところにある江戸見坂という急な坂道を登って行った閑静な場所にあります。智の父である実業家の菊池寛実が、晩年の活動拠点とした場所です。近くにホテルオークラがあり、日本古美術の大倉集古館（現在は改装中）もすぐ側にあります。私はここに今年の正月に初めて訪れてみましたが、とても素敵な美術館でした。この日は「工芸の現在」として陶磁器、ガラス工芸、彫金、竹細工工芸などの、躍動感や緊張感のある独自の造形を鑑賞することができました。展示室の空間や陳列台も見事なデザインで、驚かされたほどです。1階には、庭園が眺められる落ち着いたレストランがありました。

美術館に隣接する西洋館は、大正時代に建てられた貴重な建築物として、国の登録有形文化財に指定されています。ステンドグラスや建具などの室内装飾をいねいに保全し、現在も迎賓館として使用されています。西洋館は日時を定め、見学会も開催されているようです。



絵・文 大野正晴さん

昭和26年(1951)生まれ。38年間、新橋タクト金物株式会社勤務。
「新橋で生まれ育ちましたので、特に港区、芝地区には愛着を持っています。この地域には歴史的名跡が多いうえに、新名所もあり、興味深いエリアです。これから芝地区の“心に感じる”素敵な風景を見出して描いていきたいと思っています。」

絵・文 ■大野正晴

気になる立ち寄り処

巴町砂場

「巴町砂場」は虎ノ門久保町(今の虎ノ門交差点辺り)に開業しました。大名屋敷の整理により、天保10年(1839)今の地(現虎ノ門三丁目、旧巴町)に移転しました。

過去帳のあった浅草の菩提寺が戦災で焼けたため昔のことは分かりませんが、今の地に移転した5代前からは分かります。昔の東京は、店の場所が何代目というしきたりがあったため、移転した時の萩原長吉が初代となります。現在の店主は5代目昭さんです。これだけでも、かなり歴史の重みを感じます。ちなみに「砂場」の由来は、大阪城築城の資材置き場からきているそうです。



モダンな店舗

趣味のとろそば

店頭「趣味のとろそば」の看板が出ています。この「とろそば」とは、「とろろそば」とは違い「とろ汁」で食べるそばのこと。江戸時代から、「やまかけ」という温かい「とろろそば」はありました。3代目長康さんは夏場の「たねもの」の注文が少ないため、冷たい「とろ汁」で食す「つけとろ」という考えで考案したそうです。戦前はあまり売れなかったものの、精がつくということで、じわじわと人気が出てきました。そばにつける「とろろ」なの



「趣味のとろそば」

で濃い目につけています。「とろいも」は群馬の契約農家から直接仕入れている「大和芋」。

「趣味」というのは、3代目が「趣味で始めた」からだ、楽しい裏話もお聞きしました。

5代目店主のこだわり

5代目萩原昭さんは、食材にもかなりこだわりを持っています。出汁は宗太鰯節と本枯節をブレンドし、一番出汁のみを使用。醤油は三種類使い、みりんも二種類を使用。つけ汁は御膳がえしを使っているの、濃厚で上品なつゆに仕上がっています。そば粉は安定している北海道産を使用。出汁の取り方や材料の割合など、惜しげもなく分かりやすく説明してくださる職人の心意気には舌を巻きました。



5代目萩原昭さん

偽物は使わない。ごまかしはしない

伝統に安住することなく、常に味の進化を追及している5代目の言葉が印象的でした。



落ち着いた雰囲気の内

「偽物は使わない」「ごまかしはしない」と言い切った強い思いがあるからこそ、少々値が張ってでも本物に目がないお客さまに支持されていると深く感じました。

白いそばは、田舎そばと違い、脱穀してあるので雑味がありません。江戸職人の技がここで味わえます。田舎そばは雑味があるため、そばつゆはちょこっとつけるが、白いそばはそばつゆをたっぷりつけていただくものと、貴重な話も伺えました。

【文・取材 ■伊藤早苗】

Information

巴町砂場
虎ノ門3-11-13
TEL 03-3431-1220

区政70周年記念植樹のカンザクラが咲きました

区政70周年記念事業の一つ、昨年6月に行われた「第11回ふれ愛まつりだ、芝地区!」で、区長と一緒に区民や大使館関係者、保育園児の皆さんに区立芝公園にカンザクラを植樹していただきました。その花が、今年1月末に咲き始めました。

植樹してまもないため、枝振りはまだ未熟ですが、これから港区とともに成長して、区立芝公園にふさわしいシンボルになることを期待しています。来年はさらに枝いっぱい美しい花を咲かせてくれることでしょう。

ぜひ、皆さんも区立芝公園に足を運んでみてください。



6月の植樹



写真撮影日:2月14日

地域事業

芝de Meet The Art~アートに親しむまち、芝~



芝地区総合支所では、落書きなどがある場所に、にぎわいやイメージアップにつながるようなアート作品を展示し、安全・安心の向上やアートと触れ合える環境の創出をめざす取り組みを実施しています。

今年度は、落書きなどの対象となる可能性がある芝新堀町児童遊園内のトイレの目

隠しボード(横2.6m×縦1.2m)を活用して、アーティストの山本修路さんがペイントアートを制作しました。

制作にあたっては、事前に、放課GO→クラブしばや芝丸山古墳でワークショップを行いました。また、公開制作期間を設け、来場者にはアートに実際に加筆していただきました。

アート作品の除幕式を行いました!

平成29年(2017)1月6日(金)に、芝新堀町児童遊園で「芝de Meet The Art~アートに親しむまち、芝~」のアート作品の除幕式を行いました。

当日は天気にも恵まれ、たくさんの方に除幕式にお集まりいただき、鮮やかな色が目を引く、素晴らしい作品をご覧いただきました。

皆さまも、ぜひアート作品を見に、芝新堀町児童遊園にお越しください。

Information

芝新堀町児童遊園 芝2-12-3

問合せ先

芝地区総合支所管理課
TEL 03-3578-3191



完成したアート作品



芝会議「まちの魅力発掘部会」 の活動を紹介します

芝地区総合支所では、区民参画組織として「芝会議」を設置しています。メンバーは主に芝地区内の在住、在勤者で構成され、現在4つの部会で活動しています。その中の一つ「まちの魅力発掘部会」は、芝地区内の歴史、史跡などの魅力を発掘し、地域に発信するという目的を持っています。

毎月一回の定例会議を中心にさまざまな活動が行われ、なかでも特に力を入れているのが「芝の語り部」によるまち歩きツアーと座学です。

ガイドの養成を目的とした「芝の語り部養成講座」を修了したメンバーによってツアーなどが開催され、区外からの申し込みも多く、平成27年度には年間55回実施しました。参加人数も年間1000人を超え、リピーターの方も多く年々知名度を高めています。また、メンバーが作成した4コースのツアーマップ及びしおりも皆さまに喜ばれています。

平成29年(2017)1月3日(火)に開催されたまち歩きツアー「港七福神と史跡めぐり」は区広報紙で参加者を募り、定員20人を大幅に上回る応募がありました。当日は曇りながらもさわやかな冬空の中、七福神を祀る区内の神社を巡り、芝の語り部のていねいなガイドと併せ、軽妙なトークで参加者からは大好評を得ることができました。今後もまち歩きツアーを中心に、芝地区の魅力を発掘・発信していきます。

[問合せ先 TEL:03-3578-3192 芝地区総合支所協働推進課地区政策担当]



まち歩きツアーの様子



部会メンバーの皆さん

町会・自治会トピックス

本芝町会「らく書き消しケシ隊」参上!!

落書きの放置はまちの美観を損ねるだけでなく、犯罪者に機会を与えさせ、人の気持ちを不安にさせてしまいます。



本芝町会では平成28年度東京都「地域の底力再生事業助成」を活用し「らく書き消しケシ隊」として、以前より実施している地域の落書き消し活動をパワーアップさせました。

そこで、平成29年(2017)2月15日(水)に行われた活動取材しました。寒風吹く中、町会員、区立芝小学校のPTAや芝商店会から10名が集結。参加者は町会の用意したスポンジや専用除去剤を手に歩きながら、公共の場の落書きや迷惑広告ビラを見つければ、協力して作業に励んでいました。

終了後は、まちの景色も参加者の皆さんの表情も晴れ晴れとして誇らしげでした。

本芝町会の原雅啓会長によると「この区域は小学校通学路になっています。子どもたちの安全・安心のためにも、今後も定期的



に活動を続けていきたい」とのことです。地域を見守り続け、「我がまちは自分たちで守る」という本芝町会の皆さんの姿勢に、江戸っ子の心意気を感じました。

[取材・文・写真■芝地区総合支所協働推進課]

お知らせ

臨時福祉給付金(経済対策分)のお知らせ

消費税率の引き上げに伴う負担を軽減する措置として、「臨時福祉給付金(経済対策分)」を支給します。

対象者

平成28年1月1日時点で港区に住民票があり、平成28年度分の区市町村民税(均等割)が課税されていない方
※区市町村民税が課税されている方の扶養親族等や生活保護制度の被保護者は対象になりません。

支給額

対象者1人につき1万5千円

申請期間

平成29年3月14日(火)~7月14日(金)
※対象者には、平成29年3月13日(月)に申請書を発送しています。

申請方法

申請書に必要な事項を記入のうえ、必要書類を添付し、同封の返信用封筒でご返送ください。直接提出する場合は、以下の臨時受付窓口にお越しください。

- 芝地区総合支所 平成29年3月14日(火)~7月14日(金)
- 麻布、赤坂、高輪、芝浦港南地区総合支所 平成29年3月14日(火)~5月19日(金)
- 台場分室 平成29年3月14日(火)~3月31日(金)

受付時間

平日(土・日曜、祝日を除く)午前8時30分~午後5時
(水曜日のみ午後7時まで※台場分室は除く)

給付金に乗じた
振り込め詐欺や
個人情報の詐取に
注意してください。

問合せ先
保健福祉支援部 保健福祉課
臨時福祉給付金担当
TEL 03-3578-2846

買い物するなら 地元の 商店街で

●本誌の制作には以下の編集委員が参加しています
伊藤早苗/菊池弓可/桑原庸嘉子/柴崎賢一/柴崎郁子/岡田恵美/竹田和行/千葉みな子/中川寛之/中原たづ子/早川由紀/浜島孝啓/町田明夫/森明/森田友子/米原剛

●今後の発行スケジュールは次の通りです。

H29.6(第43号)、H29.9(第44号)、H29.12(第45号)、H30.3(第46号) ※各号発行月の20日頃

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1~3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設などで配布しています。

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。ウォーキングマップとしてご活用ください。

芝地区 MAP

